

氏名： 岩壁 茂 (IWAKABE Shigeru)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
学位： Ph.D
職名： 准教授
専門分野： 臨床心理学（特に心理療法研究）
URL： <http://www.develop.ocha.ac.jp/iwakabe.html>
E-mail： iwakabe.shigeru@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

プロセス研究／治療的失敗／臨床家の職業的成長と訓練／心理療法における感情／早期離職の要因
psychotherapy process research / therapeutic failures / Development and training of psychotherapists /
Emotions in psychotherapy / Factors associated with early turnovers

◆主要業績

総数（8）件

- ・岩壁茂 (2007). 心理療法・失敗例の臨床的研究. 金剛出版.
- ・エレン・ワクテル. (2007). こどもと家族を援助する ― 統合的心理療法のアプローチ. 星和書店. (翻訳).
- ・岩壁茂. カウンセラー・セラピストに求められる資質. 金沢吉展 (編著). (2007). 心理療法・カウンセリングの基礎. p.44-51. 有斐閣.
- ・岩壁茂. スーパービジョン. 金沢吉展 (編著). (2007). 心理療法・カウンセリングの基礎. p.60-68. 有斐閣.
- ・岩壁茂. カウンセリング・心理療法の過程. 金沢吉展 (編著). (2007). 心理療法・カウンセリングの基礎. p.121-159. 有斐閣.

◆研究内容 / Research Pursuits

2つの領域における研究を進めた。一つは、臨床家の成長と訓練に関する調査であり、インタビュー調査を行い、臨床家としての成長とかかわる体験について質的方法を使って検討した。また、これまで20カ国においてデータが集められている「心理臨床家の成長」の調査票を用いて日本の臨床家からデータを集めた。次に、心理療法における治療的失敗の研究である。臨床家に対するインタビュー調査を中心に行った。

During the school year between 2007 and 2008, I have conducted research in the two areas. The first area of focus was on professional development and training of psychotherapists. Therapists' subjective experience of professional and personal "growth" were examined through interviews with therapists of differing levels of clinical experience. The second research focus was on therapeutic failures and therapeutic impasses. I have conducted open-ended interviews with clinicians.

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部の授業は、6科目を担当した。「カウンセリング論」では理論的な知識が実際の臨床場面においてどのように使われているのかということを受講生がよりはっきりとつかめるように、カウンセリングのビデオ視聴を取り入れ、一つ一つの介入やクライアントの変化についての解説を加えた。また、授業の感想や質問をメールで受け付けて授業で扱い教員と学生の理解のズレが起こらないように気をつけた。

大学院では、「臨床心理学特論（実践）」「臨床心理学基礎実習（前期）」「発達臨床心理学研究法」を担当した。「臨床心理学基礎実習」では臨床家としての職業的成長の視点をとり入れ、自己洞察、内省を深めながら、技法の修得を促進することを強調した。継続的なロールプレイとビデオを使ったグループスーパービジョンを取り入れることによって介入プロセスに関する細かな指導を行うように心がけた。「発達臨床心理学研究法」では具体的な研究事例をとりあげ、グループディスカッションを行うことによって学生が積極的な取り組みができるよう心がけた。

I taught 6 undergraduate courses and 3 graduate courses in this school year. In undergraduate course of "Theories and practice of counseling and psychotherapy," I have used videotaped counselling sessions to illustrate how clinical concepts are used and applied in actual clinical situations. I have also accepted e-mail questions from students, which were addressed in the following class to review the materials and encourage open dialogue between students and the instructor.

In graduate courses, I encouraged students to view their learning process as a part of professional and personal growth by engaging them in activities that facilitate self-reflection. In "Research methods in clinical psychology," I have presented with specific research questions and asked students to design studies defining the sampling method, the sample size, instruments, and procedures. Group discussions comparing and contrasting pros and cons of different research designs were included to facilitate active participation and conceptual exercise of students who were clinically oriented with limited interest and knowledge of conducting psychological research.

◆研究計画

臨床家の成長と訓練および治療的失敗の二つの研究を進めるうちに、セラピストの恥と自己愛の傷つきをどのように扱うかということにテーマが浮かび上がった。治療的失敗の主要な原因の一つでもある共感の失敗やズレ、負の相互作用などにおいて、セラピストが内的な恥の体験を回避することが関係していることが関係していると示唆された。また、臨床家の成長の契機には、失敗や恥の体験をどのようにして扱い、自己理解を深めるのかということに関わっていた。本年度は、恥を中心にさらにこの二つの領域の研究を進めていきたい。

◆メッセージ

私の研究のテーマは、「人はどのように変わるのか」「どうやってそのプロセスを促進できるのか」ということです。カウンセリングでは人は自分の問題を解決したり、心理的に「成長」を感じたりします。そのような瞬間がどのようにして起こるのか、様々な方法を使って研究していきます。また、そのようなプロセスを促進するための援助のあり方について学びます。

カウンセリング心理学では、知識や技法を正確に学ぶだけでなく、それらを使って自分について振り返り、自分の中に統合していくというプロセスが大切になります。そのために、授業はいろいろな考えや感じ方などを試す実験の場にもなります。

このようなテーマについて学生の皆さんと一緒に探求していきたいと願っております。